

# 08新現地を行く

## 元気農家・販売店ルポ

### ◆三陽機器のツインモア導入◆

栃木県鹿沼市  
野沢営農組

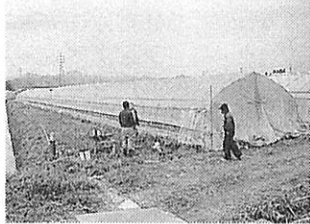


ツインモアを高く評価する柴山組長(左端)と三古谷氏。右端はオオモリの川久保専務

栃木県の県央西部に位置し、観光地・日光や宇都宮市と隣接している鹿沼市。今回取材にうかがったのは、鹿沼地域の野沢営農組合(柴山裕男組長)である。鹿沼市の統計によると、鹿沼地区の総農家は平成17年で

875、平成12年比で31.6%減。耕地面積は716.7で同5.8%減と減少傾向にある。ただ、施設園芸のハウス・ガラス室面積は、平成12年の1781から1831に2.8%拡大しており、この分野では元気に

# 草刈り作業を短縮 稲作合理化しイチゴに力



粟野の(株)オオモリ(大森晃吉社長)から、三陽機器のトラクタ用アーム式草刈機「ツインモアBM」の中で、同組合は唯一の

発時は4人のメンバーだったが、いまは8人に増えている。組合所有の機械は、50台、4条刈り1台、乾燥機は60石2台、35石2台、18石1台、ほかに籾すり機その他稲作関連機器をひと通り揃えている。昨年、川久保専務は、



草刈り作業を効率化するツインモアBM36による作業

30戸の農家を相手にしている。地域の農業は、川久保守一専務は、「大変しっかりとした経営を進めている組合で、私どもにとってもAランクのお客様と高く評価する。組合の設立は昭和59年。柴山組長(45歳)の父君が、すでにスター

柴山組長からトラクタの草刈りにそれぞれ使っている。地域の農業は、装着型のアーム式草刈機を取り寄せてほしいと依頼され、いわばセールス要らずで「ツインモアM36」(ロータリモア、刈り幅800mm、水平最大リーチ3600mm、屈折型2面刈り)を販売した。管理圃場の規模が大

理的・省力的に片づけていくことになる。組合所有の機械は、50台、4条刈り1台、乾燥機は60石2台、35石2台、18石1台、ほかに籾すり機その他稲作関連機器をひと通り揃えている。昨年、川久保専務は、組合メンバーが自分の圃場に荒らさずに後代に伝える。稲作合理化は、現在、集落営農への発展を模索している最中。地域稲作を共同で行い、高年齢者も可能な範囲で作業に加わってもらうよう目標を掲げている。

「これまでの慣性として、刈払機で見た目のきれいに草刈りするというのが現状だったが、いくらかきれいにやってもまた草は伸びる。それなら、多少ラフに見えたとはいえ、この機械で草刈りの回数が増やしたほうが良いでしょう」とも。組合ではツインモアのほか、歩行型の畦畔草刈機も所収しており、これに刈払機を加え適材適所の使い方での作業の効率化を図っている。組合運営に関しては、モアを探求しよう、地域農業形成に向けて、その目標は広角に、食欲に次

よ。私のところでは、これまで3日かかっていた作業が、半日あれば全部終わっちゃいますからね」と満足度は十分。暑い季節の重労働となる草刈り作業を、同氏の場合には年4回ほど繰り返さなくてはならず、ツインモアの導入効果は期待以上に大きかったようだ。その先がけとして組合では、昨年より稲育苗の作業を手がけ、地域内の農家に低コストで苗を供給し始めた。機械倉庫の裏手には育苗用のパイプハウスを設け、今年も間もなく苗の出荷時期を迎える。今春はおよそ4200枚の箱数になるとい